

平成 23 年度第 8 回 IODP 部会執行部会

日時:2012 年 1 月 25 日(火)11:00~13:30

場所:東京大学理学部 1 号館 936 室

出席者:

執行部:川幡穂高(部会長・東京大学大気海洋研究所)、西 弘嗣(部会長補佐・東北大学)、井上麻夕里(東京大学大気海洋研究所)、木村純一(海洋研究開発機構)、小林励司(鹿児島大学)、鈴木庸平(東京大学)、辻 健(京都大学)、七山 太(産業技術総合研究所)、中西正男(千葉大学)、中村恭之(海洋研究開発機構)、村山雅史(高知大学海洋コア総合研究センター)、森田澄人(産業技術総合研究所)、横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

オブザーバー:

文部科学省海洋地球課:柴田晋吾、三木清香、嶋崎賢太

IODP-MI:川村善久

CDEX:江口暢久

事務局:菊田宏之、藤森英俊、梅津慶太(CDEX)

欠席者:道林克禎(静岡大学)

議事次第【説明者(敬称略)】

1. SIPCom 報告【川幡部会長】
2. 掘削航海関連報告【事務局】.....資料 1
3. CDEX 報告【CDEX】.....資料 2
4. J-DESC 活動
 - ・J-DESC 年会費の見直しについて資料 3
 - ・会員提案型活動経費報告.....資料 4
 - ・臨時総会&ミニシンポジウム+ HCL Symposium & Farewell Party資料 5
 - ・書記指名(臨時総会)など
5. PEP、SIPCom 委員ローテーション再検討資料 6
6. その他
 - ・次回開催予定

配布資料

- 資料 1 掘削航海報告
- 資料 2 CDEX update
- 資料 3 J-DESC 年会費の見直しについて
- 資料 4 平成 23 年度会員提案型活動経費採択一覧
- 資料 5 J-DESC 臨時総会&ミニシンポ+HCL Sympo & Party プログラム等
- 資料 6 SIPCom、PEP 委員ローテーション案

合意事項

合意項目 (120125-01): 5/20(日) 15:00~17:00 に JAMSTEC 東京事務所において総会を開催することを陸上掘削部会に提案する。

合意項目 (120125-02): 初めての試みとして、今年度採択され実施された会員提案のレビューを行う。

議事録

1. SIPCom 報告

川幡部会長より報告がなされた。

- ・ ゴア(インド)にて 1/19-20 に第 1 回の会議が開催された。
- ・ 今回非常に驚いたのは、日本の国内もばらばらで、外国からの期待も以前と比べて非常に落ちていることである。これは、研究者のレベルでも顕著であることが大きい。少なくとも 2003 年あるいは 2004 年の IODP、SPC の開始の時には日本への期待は大きく、地球深部探査船「ちきゅう」を建造して、何かをしてくれるような感じは会場の全ての人のもっていたが、結局、年たっても、地球深部探査船「ちきゅう」は日本の周辺から離れることはなかった。2014 年以降についても、地球深部探査船「ちきゅう」が外にでていくという事に関して、現時点では怪しげであると思われることが、これに拍車をかけているのではないかと懸念される。
- ・ SIPCom は、開始と同時に役目を 2 年後に終えるということもあり、議事であり重要なこともなく、会議は淡々と進んだ。コンセンサスなども当たり前のものばかりであったと感じた。
- ・ 改めて川幡部会長が報告書を作成し配布する。

柴田氏よりコメント

- ・ SIPCom について 5 名の委員が日本から出席していたが、日本委員のプレゼンスは著しく低かった。いくつかの質問があった程度で、全く発言しない方もいた。一方、アメリカ人等は積極的に発言を準備しているように見受けられ、終始議論をリードしていた。いつもこのような様子であるのであれば、税金を使って我が国から大勢委員を派遣することの意義を問われかねない。出席した日本の委員は事前準備をしないで参加していたのではないのか。
- ・ 直前の事前打ち合わせ会議に当方から出席したところ、誰もいない様子で連絡なくキャンセルされていたようだがどうなっているのか。言葉のハンディがあるのであれば、今後は当方からいくらでも説明をするので、事前の打ち合わせを実施すべきなのではないか？
- ・ 次回の 6 月に本当に 5 名も行っていただく必要があるの考えていただきたい。お忙しい大学の先生が事情も十分承知しないまま参加されるのであれば、そのお金をプロポーザル策定のワークショップに回したほうがあるいは有効かもしれない。積極的に議論をリードできる方が一人二人いればいいのではないのか。

柴田氏コメントへの回答

→開催の意図が不明確であったことが大きな理由であり、忙しい時期に貴重な時間を使って事前会議を開催するよりも、現地で直前にあまり時間を使わずにやるべきと判断した(川幡部会長)。

→6 月の委員については次回以降の執行部会において検討する(川幡部会長)。

2. 掘削航海関連報告【事務局】.....資料 1

事務局より標記の件について資料 1 に基づき報告がなされた。

- ・ 前回の報告から乗船応募状況はあまり変わらない。
- ・ Exp. 338 は 6 名の応募がある。
- ・ Exp. 343 の応募者で選考から漏れた人には落選の通知がまだ送られていないため、Exp. 338 や 344 への応募がとどまっている状況である。
- ・ Exp. 345 は Petrologist が 8 名応募してきており、そのうち 2 名から Inorganic Geochemist に変更する旨の連絡があった。この他考えられる分野としては Logging、Physical Property、Structural Geology 等々。
- ・ JR が Exp. 339 直後に、船体補修のため急きょドライドックに入った。それにより Exp. 340 以降のスケジュールが変更となった。
- ・ Exp. 340 は当初 2/6 からの予定だったが 3/3 から開始される。引き続き Exp. 342 は当初 6/18 開始だったものが若干早まり、6/1 から開始、これ以降の 344、345、341、346 は大きな変更はない。

- ・ なお、それぞれの航海の掘削期間は変更前と変わりはない。

川村氏より MSP の航海について情報提供があった。

- ・ Baltic Sea (Exp. 347?) の Offshore party は 2013 年 4、5 月の 60 日間で予定されている。
- ・ Onshore party は未定。

3. CDEX 報告【CDEX】.....資料 2

- ・ 「ちきゅう」はスリランカでの資源掘削を終了し、日本に無事帰ってきており、現在清水港に入港している。
- ・ スリランカの掘削では、4,700m(水深 1,500m)を超えるライザー掘削を実施した。
- ・ 今回の商業掘削により、掘削オペレーションの向上が見られ、IODP 航海でもその能力を發揮することが期待される。
- ・ 今後の予定は、4/1～5/21 に Exp. 343 を実施し、その後佐世保にてスラスターの取り付け工事を行う。さらにその後、7/6～9/15 に Exp. 337、9/19～2013/1/31 に Exp. 338 と続く。2013 年 2 月から 6 月までは Non-IODP をはさみ、7 月から NanTroSEIZE stage 3 Plate Boundary Deep Riser-3 (Exp. 348 にナンバリングされる予定 by 川村氏)を実施する見込み。
- ・ Exp. 338 で 3,600m まで掘削する。再来年の Deep Riser-3 では Megasplay fault まで達する計画である。

4. J-DESC 活動

・J-DESC 年会費の見直しについて.....資料 3

川幡部会長より資料 3 に基づき説明がなされた。

- ・ 余剰金を使っていく方向で今後 10 年間の資金計画を組むというコンセプトで検討を進める。今年度始めの時点で 1,100 万円の余剰金があるため、毎年 100 万円の赤字が出ても 10 年間は資金に困らないはずである。
- ・ 陸上掘削部会執行部からは資料 3 の案でおおよそ了承を得ている。
- ・ 今日の臨時総会で案を提示し、会員からコメントをもらい、来年度の定例総会で議決して来年度から実行したい。
- ・ 次回以降の執行部会で J-DESC の活動の中で必要な活動をランク別に仕分ける作業を実施する。
- ・ 成果公表助成は今年度末でやめる方向で検討したい。CDEX が乗船後研究委託を始めたため、CDEX が成果収集を行う方が、筋が通っている。

合意項目 (120125-01): 5/20(日) 15:00～17:00 に JAMSTEC 東京事務所において総会を開催することを陸上掘削部会に提案する。

・会員提案型活動経費報告.....資料 4

事務局より標記の件について資料 4 に基づき報告がなされた。

- ・ 今年度は現在までに 6 件を採択し、採択額は総額で 130 万円超えている。今年度予算は 120 万円。
- ・ 今後は実施された会員活動について事後評価を行うべきではないか？

合意項目 (120125-02): 初めての試みとして、今年度採択され実施された会員提案のレビューを行う。

・臨時総会&ミニシンポジウム+ HCL Symposium & Farewell Party.....資料 5

- ・ 書記指名(臨時総会)など

川幡部会長より資料 5 に基づき説明がなされた。

- ・ 書記は辻委員にお願いする。
- ・ ミニシンポでは将来の掘削計画のプロポーザルになりそうなものがあるか注意深く見てほしい。
- ・ 座長は川幡部会長と西部会長補佐が行う。
- ・ 受付はアルバイトを 2 名お願いしている(J-DESC 負担)

5. PEP、SIPCom 委員ローテーション再検討.....資料 6

川幡部会長より説明がなされた。

- ・ 昨年 5 月に検討した PEP と SIPCom の委員ローテーションをフレームワークの再検討の結果を踏まえて再検討する。

- SIPCom がなくなることは決定。PEP は継続するが、2013 年以降の委員選出についての方針はまだ決まっていない。
- 「ちきゅう」の FGB には PEP から委員を入れるように MEXT に要請している。

6. その他

•IWG+報告

MEXT 柴田氏および三木氏より IWG+の会合結果に基づく次期枠組みの進捗状況について説明がなされた。

- IWG+が先週ゴアにて開催された。95%程度合意された。
- 支援事務所についてはまだ議論が残っていると日本側は考えている。
- 米国は支援事務所を米国の FGB の中に入れなければならないと主張している。
 - ▶ 欧州はそれでいたしかたないと姿勢。日本は2週間程度の検討の猶予をもらった。
 - ▶ 米国は日本などからの支援事務所のための資金も受け付けることはできないとのこと。JR 運航への資金貢献をする意外にお金のやりくりはできない。
 - ▶ この仕組みではスローン財団など外部機関からの資金の受け皿がない(JAMSTECでは受け皿になれない)ほか、モホール計画をマネジメントする機能が欠けているため、その機能を補完する役割が必要であり、これを日本から提案することを検討している。
- 提出されたプロポーザルは PEP を経て各 FGB に直接送られる。
- 「ちきゅう」は日本の FGB (米国、欧州もそれぞれ FGB を設置)で運航計画を最終決定する。
- FGB は国際プログラムとしての透明性確保のため、国際的に委員を選出する。
- FGB 間でのコミュニケーションはできうる形になっている。また、IODP Forum なども国際コミュニティーへの意見交換のパスとして使える。
- JR への乗船枠は 24 枠/年程度になる見込み。
- 地中海掘削のプロジェクトに対して、欧州も 10M\$単位での資金提供を考えている。
- 「ちきゅう」はライザーレス掘削も実施する。
- 「ちきゅう」はプロジェクト型(大型)の資金貢献に加え、パートナーシップ型(一定額を支払うことで、「ちきゅう」での乗船権やその他日本が有する掘削科学ファシリティの使用権を獲得)の参加形態を設けることで調整している。

•その他

柴田氏よりコメント

- 欧州の評価レポートに IODP になってからの論文数の国別統計が掲載されており、日本からの数は、欧米に比較して著しく少ない結果となっている。これは正しい統計なのか。その事実関係を調べていただくとともに、今後どのように改善していくかについて検討していただきたい。

→ひとまずどのようなデータで統計をとっているかを確認するため、ECORD のレポートのダウンロード先を事務局より執行部に後日送ることとなった。

•次回開催予定

メールにて調整。